

(1グループ) 目的の階層化 主語は住民



|                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| レベル5<br>(未来の姿)      | 高齢者がスマートフォンなどのデジタルデバイスの必要な機能を抵抗なく利用でき、キャッシュレス支払にもスムーズに対応できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| レベル4<br>(将来的な目的)    | パークは売り場面積が小さく高齢者には買物がしやすいとの声も聞かれるが、商品数が多くはなく、客数も減っているので閉店する？という話しも聞かれることがある。地域に根差した小規模のお店への継続支援は必要ではないか。<br>移動手段などは各地区で独自の取り組みも聞かれる。情報の整理と取り組みについての共有をすることも必要ではないか。<br>また、地域ごとに実情は異なり、根差しているお店もある。地域の実情に応じた販売形態の実現、例えば無人販売所や移動販売、食料品の自動販売機で支払方も現金やキャッシュレスなどが出てきてもいいのではないか。<br>配食サービスは拠点までの運搬をだるま屋に頼んでおり、配送費をお支払いしているので、利用が増えることで事業継続に繋がり、結果としてだるま屋への支援になるのではないか |
| レベル3<br>(主たる目的)     | 自宅から買物先や市民センターなどの拠点までの移動手段を確保できる。<br>乗合タクシーの便数の増加（R9、R10年頃から？生活福祉バスから変更予定）生活福祉バスは利用者減少のため乗合いタクシーに変えていく方向で検討中。<br>福祉移送サービス事業の利用目的を見直してみる。限定的に買物の使用ができるようになってるのは先進的ではあるものの、変化するニーズに合わせて見直す必要は出てくる。しかし、内容によっては公共交通に影響する可能性もあることを考慮する。                                                                                                                              |
| レベル2<br>(すぐに行える事)   | デイサービス、ミニデイなどのご高齢者向けにスマートフォン教室を開催してスマートフォンの使用に慣れてもらう。（スマートフォンでキャッシュレス支払がスムーズにできれば無人店舗などお店の形態の選択肢が増え、利用機会も増える。）                                                                                                                                                                                                                                                  |
| レベル1<br>(既に行われている事) | だるまやの配達、生協（個配）、近所の人を送迎での買物（年々減少傾向）、家族帰省時の送迎やお使い、受診時に医療機関の近くでの買物、移動手段として生活福祉バスの利用、自家用車の使用、帰省した家族の車、家族の帰省時に所有している車を運転してもらう、など。                                                                                                                                                                                                                                    |

移動手段については宇治町のことぶき会が宇治町で独自に取り組まれているものがある。公共交通との絡みもあるため、エリアや規模などは限定的にしている。

生活福祉バスは利用者がほとんどいない状態で走らすだけになっていることも多く、また受診などの目的で使用しても便数が少なく往復で1日かかるという課題もある。

## (2グループ) 目的の階層化      主語は住民

